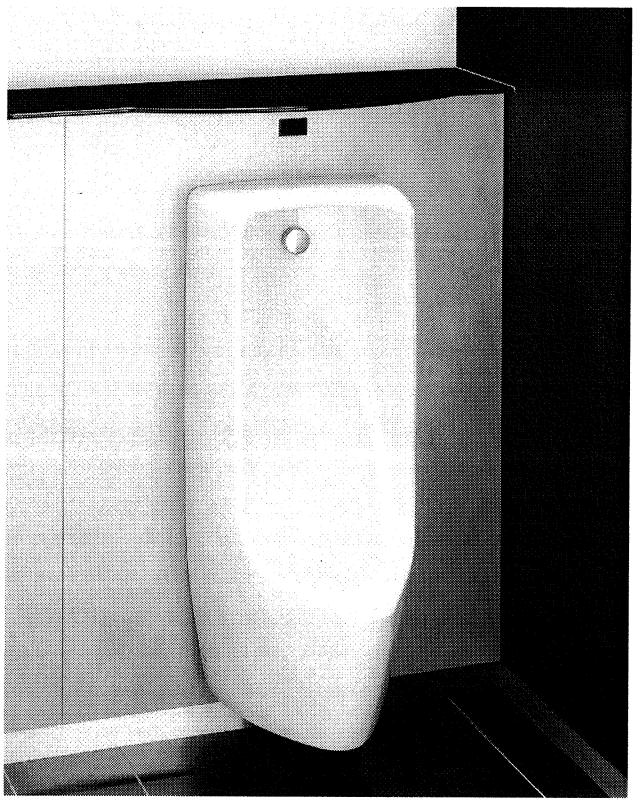
LIXIL

スモールセンサー小便器ユニット

管理の手引き（取扱説明書）



＊必ず管理を担当される方にお渡しください。

長くお使い頂くために、本文中のお手入れ方法を
お守りください。

この『管理の手引き』は、必要なときにすぐ取り出せる
ところへ大切に保管してください。

本文中に書かれている注意事項は必ず守ってください。
不適切な使用により事故が生じた場合、弊社は責任を
負いかねますので、予めご承知願います。

もくじ

安全上のご注意 ・・・・ P.1～4

各部の名称 ・・・・ P.5～6

特長 ・・・・ P.7

各機能の説明 ・・・・ P.8～11

点検と保守

■ 甲板の取り外し、取り付け ・・・・ P.12～14

■ ストレーナーの点検、清掃 ・・・・ P.15

■ 電磁弁、ダイアフラムの点検、清掃 ・・・・ P.16～17

■ センサーの交換 ・・・・ P.18～19

■ 専用リチウム電池(A-4025)の交換 (アクエナジー式) ・・・・ P.19

■ 流量センサー(アクエナジー式の場合は発電機)の交換 ・・・・ P.20

■ 流量の調節 ・・・・ P.21

■ センサー故障表示について ・・・・ P.22

■ 洗浄モードの設定 ・・・・ P.22～23

■ センサー感知部、センサー窓(裏面)の清掃 ・・・・ P.24

お手入れについて ・・・・ P.25～26

修理を依頼される前に ・・・・ P.27～29

仕様 ・・・・ P.30

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
ここに示した注意事項は、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

■ 用語および記号の説明

⚠ 警告	取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。
⚠ 注意	取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが予想されます。
⚠	「注意しなさい！」 上記の「警告」、「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、注意事項をお守りください。
⃠	「してはいけません！」　一般的な禁止記号です。
❗	「指示どおりにしなさい！」　一般的な行動指示記号です。

⚠ 警告	
修理者以外の人は、絶対に分解したり、修理改造は行わないでください。 ※発火したり、異常作動してケガをすることがあります。	⃠
甲板、前板部分に水や洗剤を直接かけることはおやめください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因となります。	⃠
前板のセンサー窓部に水や洗剤を直接かけることはおやめください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因となります。	⃠
コネクターの抜き差しは必ず乾いた手で行ってください。 ※濡れた手で行うと感電する恐れがあります。	❗
電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたり、重いものを載せたり、挟み込んだりしないでください。 ※電源コードが破損し、発火、ショート、感電の原因となります。	⃠
甲板の上に乗ったり、寄りかかったり、重いもの（5kgf 以上）を載せることはおやめください。 ※甲板が破損してケガをする恐れがあります。	⃠

⚠ 警告

専用リチウム電池の廃棄のしかたを誤ると、ショートして発熱、破裂、発火することがあります。地方自治体の定めた方法で正しく廃棄してください。

※電線を切らないでください。

※外装チューブを破らないでください。

※コネクターをセロファンテープなどで絶縁してください。

⚠ 注意

（100 V式の場合）

本品が故障、破損した場合、通電をやめて修理を依頼してください。

※そのまま使用すると、発火、ショート、感電の原因となります。

（100 V式の場合）

交流 100 V以外では使用しないでください。

※発火、ショートの原因となります。

電源コードが傷んでいるときは使用しないで下さい。

※発火、ショート、感電の原因となります。

前板センサー窓には、トイレ用洗剤、住宅用洗剤、漂白剤、ベンジン、シンナー、トイレ用ウエットティッシュ、クレンザー、クレゾールを使用しないでください。

※故障、破損、発火、ショート、感電の原因となります。

水道水以外は使用しないでください。

※機械の内部腐食により、発火、ショート、感電、故障の原因となります。

便器の上に乗らないでください。

※破損してケガをする恐れがあります。

便器に衝撃を与えないで下さい。

※破損してケガをしたり、漏水のため財産損害が発生する恐れがあります。

便器にヒビが入ったり、割れたりしたら破損部は絶対に触らないでください。

※破損部でケガをする恐れがあります。早めに交換してください。

便器に熱湯を注がないでください。

※破損してケガをしたり、漏水のため財産損害が発生する恐れがあります。

⚠ 注意
断水後は、しばらく時間をおいてから使用してください。 ※配管内に空気が混入することがあり、破損してケガをする恐れがあります。
小便器内に芳香剤や氷を置かないでください。 ※排水路をふさぎ、洗浄水があふれ、財産損害が発生する恐れがあります。
小便器内の排水がスムーズに流れなくなった場合は、便器排水路や排水管に詰りが生じている恐れがあります。 そのまま使用すると洗浄水があふれ、財産損害が発生する恐れがありますので掃除を行ってください。
(100 V式の場合) 長時間使用しないときは電源を切ってください。 ※漏水などの予想しない事故により財産損害が発生する恐れがあります。
給水圧力は、必要最低水圧(流動圧)0.07 Mpa～最高水圧 0.75 MPa(静水圧)です。 ※最低水圧を下回ると十分な流量が確保されず、鉢洗浄できなくなる場合があります。最高水圧を上回ると故障の原因となります。

■専用リチウム電池についての安全上のご注意

⚠ 警告
・電池を充電、分解、加工、改造、しないでください。 ・電池を加熱したり、火中に投げ込まないでください。 ・電池を強制放電しないでください。 ・専用リチウム電池以外の電池を使用しないでください。 ※漏液、破裂、発火、故障の原因となります。

⚠ 注意
・電池の液が漏れたときは、液をきれいに拭き取ってください。万一、液が身体についたときは水でよく洗い流してください。また、漏液した電池は使用しないでください。 ・電池を機器に使用するまでの間、または取り外して保管するときなどは、風通しの良い、乾燥したあまり温度の上がらない場所に保管してください。

■掃除用ボードについての安全上のご注意

⚠警告
掃除用ボードの裏側には磁石がついています。ペースメーカーなどの電子医療機器を装着した人、およびその他の医療機器には近づけないでください。 ※医療機器の正常な作動を損ない、人命に関わる恐れがあります。 ボードを電子機器に近づけないでください。 ※計器、制御回路に影響し、事故や故障の原因となります。

⚠注意
ボードをフロッピーディスク、磁気カード、磁気テープ、プリペイドカード、切符、ブラウン管などに近づけないようにしてください。 ※ボードを磁気記憶媒体に近づけると、記録が破壊される恐れがあります。 ボードを腕時計、携帯電話などの精密機械に近づけないようにしてください。 ※機器の故障の原因となります。

■結露の注意

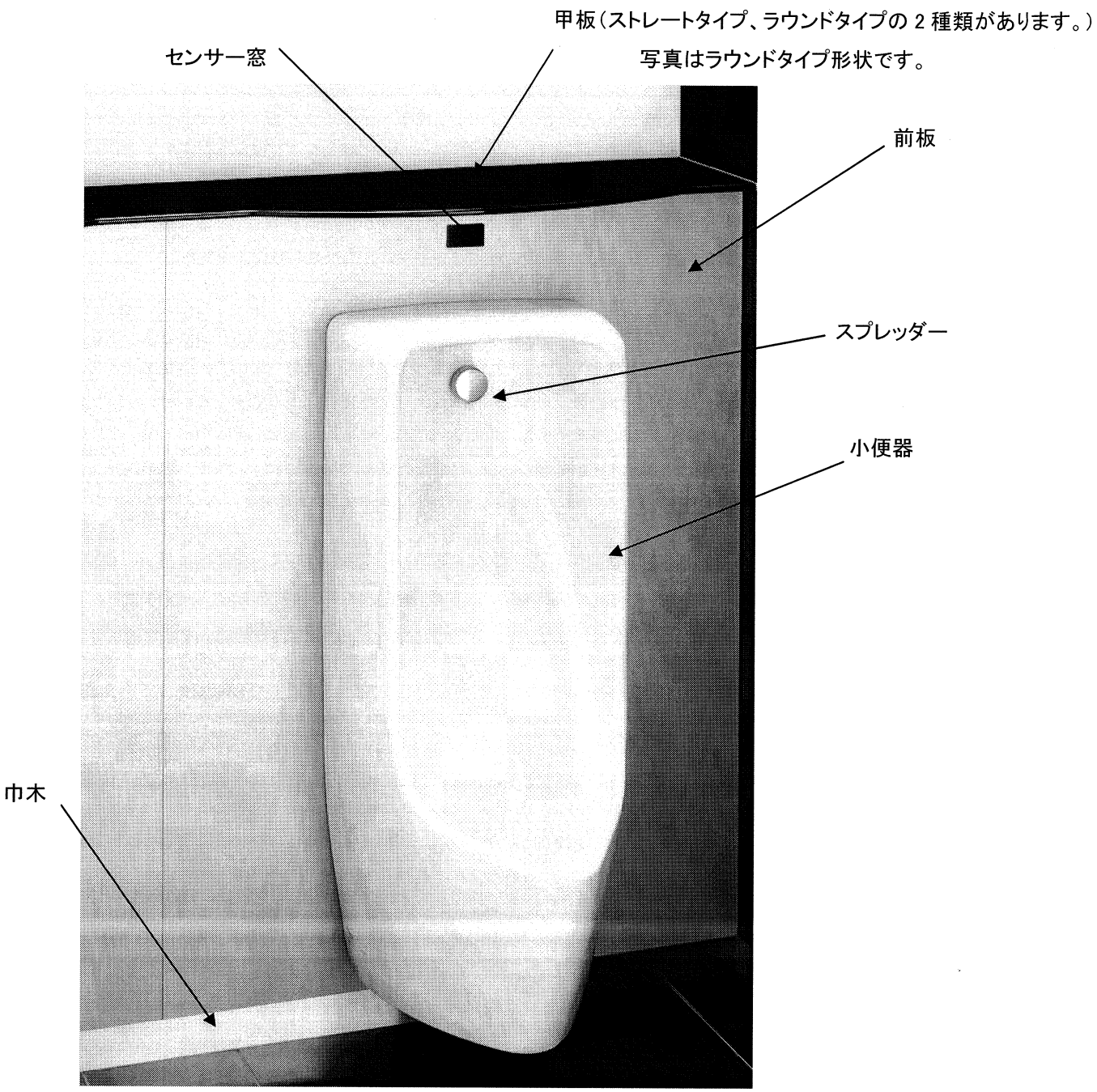
室温と小便器の表面温度差や湿度により、小便器の表面に水滴が生じることがあります。(結露)
結露を防ぐためには、部屋の換気を十分に行ってください。なお、結露水が生じた場合は乾いた布で拭き取ってください。
※結露水は床のしみや破損の原因になります。

■KILAMIC 抗菌商品についての注意

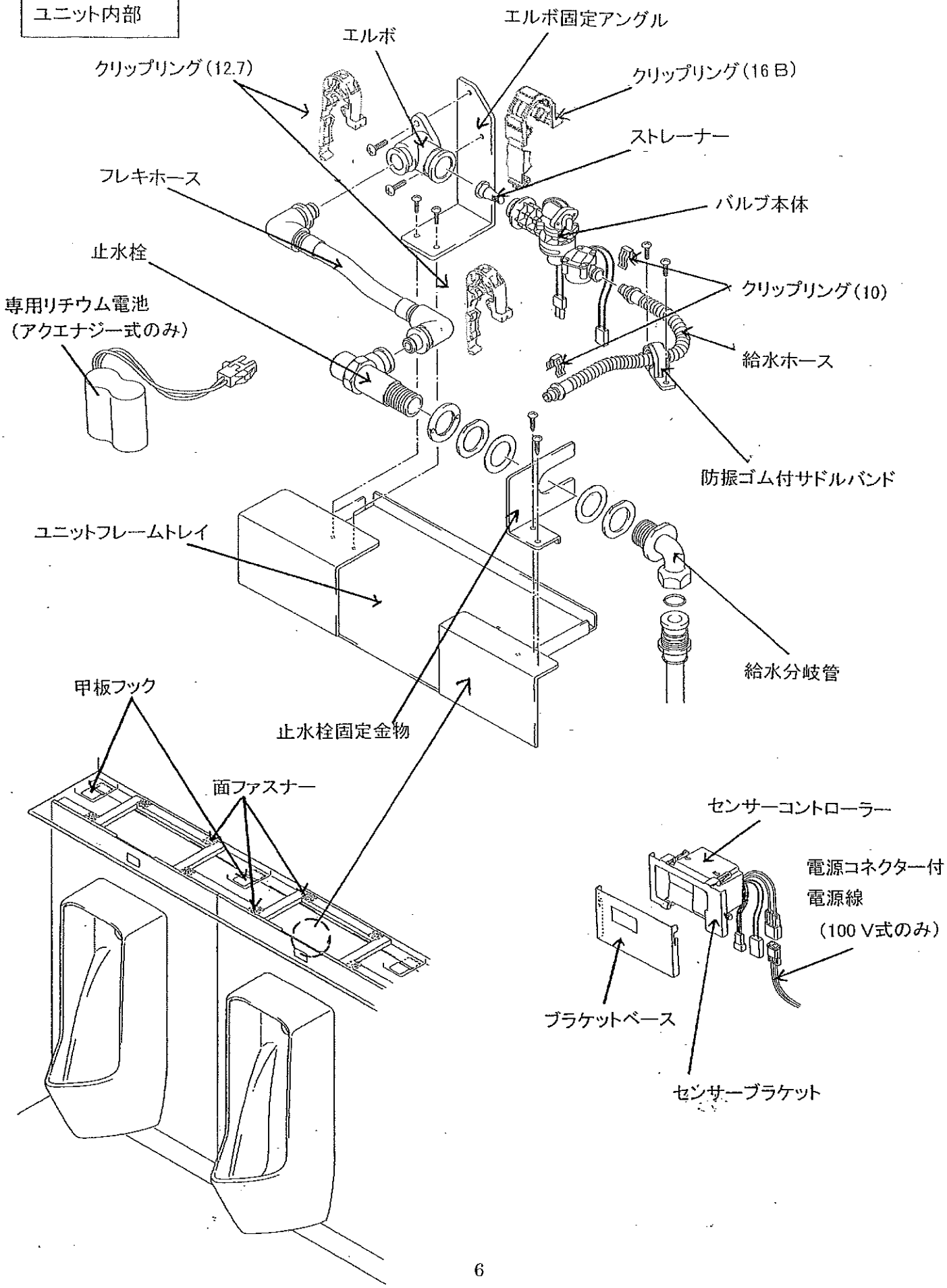
本品小便器は KILAMIC 抗菌商品です。

1. KILAMIC 抗菌商品は表面に菌が付着したときに抗菌効果を発揮し、菌の働きによる汚れの生成を抑制します。
   ホコリ、油膜等が表面を覆った場合、この上に付着する菌に対しては十分な抗菌効果を発揮できません。
2. KILAMIC 抗菌商品は、菌の繁殖を抑制する効果を持ちますが、菌がまったくなくなるわけではありません。
   したがって、本商品により感染などが完全に防げるわけではありません。

各部の名称


甲板（ストレートタイプ、ラウンドタイプの 2 種類があります。）
写真はラウンドタイプ形状です。
センサー窓
前板
スプレッダー
小便器
巾木

ユニット内部


エルボ
エルボ固定アングル
クリップリング（12.7）
クリップリング（16 B）
ストレーナー
フレキホース
バルブ本体
止水栓
クリップリング（10）
専用リチウム電池
（アクエナジー式のみ）
給水ホース
防振ゴム付サドルバンド
ユニットフレームトレイ
給水分岐管
甲板フック
止水栓固定金物
面ファスナー
センサーコントローラー
電源コネクター付
電源線
（100 V式のみ）
ブラケットベース
センサーブラケット

特長

■赤外線センサー内蔵で外観すっきり

赤外線センサーがユニット内に内蔵され、フラッシュバルブなど給水管が露出していないため、外観がすっきりとして掃除が簡単にできます。

■低くて手荷物が置きやすい甲板

甲板の高さが低く、奥行きも広いため、使用時に手荷物などがラクに置けます。

■お掃除しやすい小便器形状

小便器の鉢面がリムの無い形状をしているため、隅々まで掃除しやすくなっています。

■使いやすい小便器形状

お子様から高齢者の方々まで、幅広い年齢層で無理なく使用できるタレ受け高さになっています。

タレ受けを先尖り形状とすることで、使用者が便器に近寄りやすくなり、タレ汚れを防ぎます。

■感知能力の高い赤外線センサー

白色と黒色の感知差がほとんどなく、白い服でも黒い服でも同じように確実に感知できます。

■高い節水効果(選択し、設定することにより変更可能)

スーパーAI節水モードで使用頻度、使用時間により、洗浄水量を自動的に調節します。

当社従来システム(OKセンサー)と比較して約 70%の節水が可能です。(お引渡し時はスーパーAI節水モードに設定)

■アクエナジー機能で経済的(アクエナジー式の場合)

水力発電機を内蔵しており、洗浄水のエネルギーを電源回路に蓄えて赤外線センサーの作動電源としますので経済的です。

■豊富な洗浄機能(選択し、設定することにより変更可能)

使用者を感知したら、使用する直前に数秒間洗浄して汚れが付きにくくする予備洗浄機能や、使用感を損なわない節水機能など、豊富な洗浄機能を揃えています。

■いつまでも機器を守る設備保護洗浄(選択し、設定することにより変更可能)

長時間使用しない場合でも一定時間経過すると自動洗浄し、下記の働きを行います。(お引渡し時は各節水モード対応に設定)

・自然乾燥による封水切れを防止し、室内に臭いが漏れません。

・尿石を溜まりにくくして、小便器の詰りを防止します。

・センサーの充電不足を防止します。(アクエナジー式の場合)

■ 凍結防止機能(選択し、設定することにより変更可能)

一般地での冬季の冷え込みによる製品の凍結破損を防止するため、外気温を検出し、一定時間間隔で自己吐水し、凍結しにくくします。

■掃除用ボード付き

付属の掃除用ボードでセンサー窓を覆うことで、洗浄を停止させた状態で清掃を行うことができます。

ボードを外せば、元どおりに洗浄しますので大変便利です。

■ストレーナー清掃時期が判るランプ表示

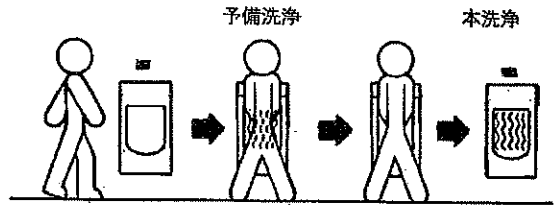
センサー正面の緑色ランプの点灯状態で通水状況が判別できるので、ストレーナー清掃の時期が判り大変便利です。

各機能の説明

本品には次のような機能が備わっています。

■予備洗浄機能

使用者の感知とともに行う洗浄機能です。
尿の飛沫、付着を防止し、洗浄効果を高めます。
節水のために予備洗浄をなくすことができます。
※お引渡し時は「予備洗浄する」に設定されています。
詳細は「洗浄モードの設定」(P. 22)をご覧ください。



■本洗浄機能

使用者が立ち去った後に行う洗浄機能です。
鉢面を洗浄し、トラップ内の封水を入れ替えます。
本洗浄は即時洗浄と追加洗浄に分けられます。

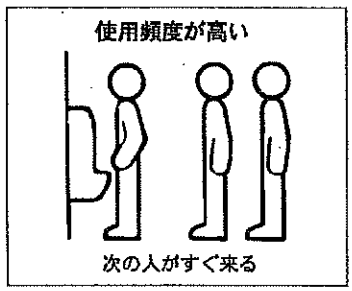
即時洗浄
使用者が立ち去った後、すぐに行う洗浄機能です。
使用頻度と使用時間を計測し、次の使用者に尿臭を感じさせないための最低洗浄水量で洗浄します。

追加洗浄
使用者が立ち去った後、次の使用者が予測した時間どおりに来なかった場合、追加で行う洗浄です。
※スーパーAI節水モードの場合、0.5～2 時間、AI節水モードの場合 0.5～3.5 時間の範囲で洗浄します。
※お引渡し時は、スーパーAI節水モードに設定されています。本洗浄機能の設定を変更したい場合は、
「洗浄モードの設定」(P. 22)をご覧ください。

■スーパーAI節水モード

使用頻度、使用時間により、洗浄水量を調節して節水効果を高める機能です。

前の使用者までの使用頻度から、次の人が使用するまでの空き時間を予測します。

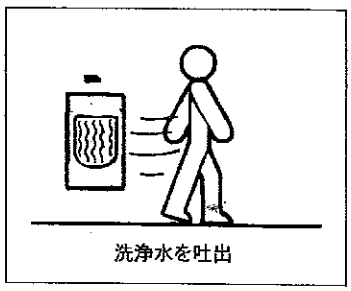


小便器の使用時間から、小便量を推定します。

次の使用者が尿臭を感じないための最小限の水量で洗浄します。

洗浄水量:1～2Lで自動調節

※予測した時間までに次の人が来なければ、即時に追加洗浄を行い清潔性を保ちます。(0～1L)
※流量センサー(アクエナジー式の場合は発電機)で水量を計測していますので、洗浄水量は正確です。



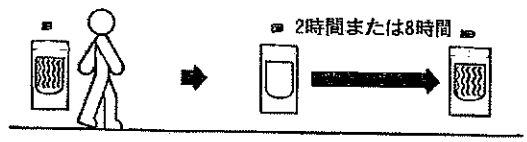
■AI節水モード

洗浄水量:2～4Lで自動調節

※予測した時間までに次の人が来なければ、即時に追加洗浄を行い清潔性を保ちます。(1～2L)
※流量センサー(アクエナジー式の場合は発電機)で水量を計測していますので、洗浄水量は正確です。

■設備保護洗浄機能

トラップの封水切れ防止および配管の尿石付着抑制のため、
最後に使用されてから 2 時間または 8 時間経過すると
自動的に 2L または 4L の洗浄を行う機能です。



本洗浄	洗浄間隔	洗浄水量
スーパーAI 節水モード	2 時間	2L
AI 節水モード	8 時間	4L
固定モード	8 時間	4L

※この他、本洗浄に関係なく、2 時間毎 4L、24 時間毎 4L、なしにも設定できます。ただし、「24 時間毎 4L」、「なし」に設定した場合、排水管に尿石が溜まり、詰まりやすくなります。また、尿臭を感じる恐れがあります。

■凍結防止機能

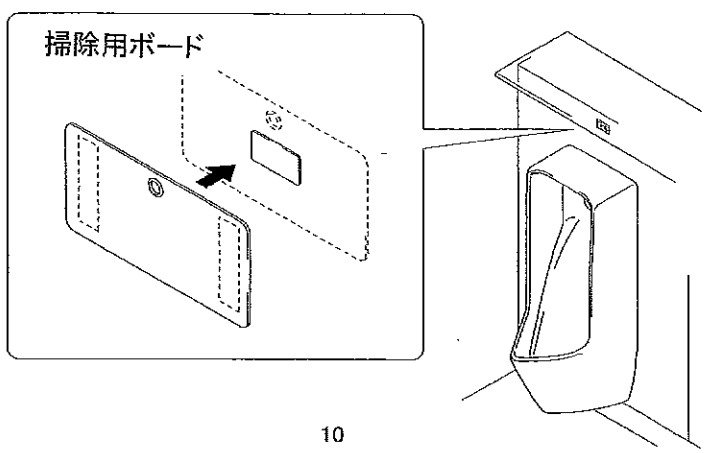
一般地での冬季の冷え込みによる製品の凍結破損を防止するため、外気温を検出し、一定時間間隔で自己吐水し、凍結しにくくします。

※お引渡し時は「凍結防止しない」に設定されていますが、「凍結防止する」にも設定できます。詳細は「洗浄モードの設定」(P.22)を参照してください。

※寒冷地には対応しておりません。寒冷地で使用された場合、凍結により破損する恐れがあります。

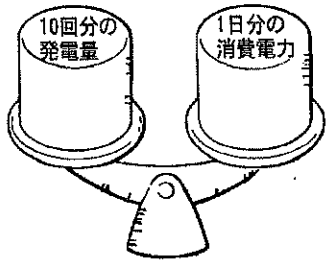
■掃除用ボード

付属の掃除用ボードでセンサー窓を覆うことで洗浄を停止させた状態にできます。
清掃後、ボードを外せば、元どおりに洗浄を行います。

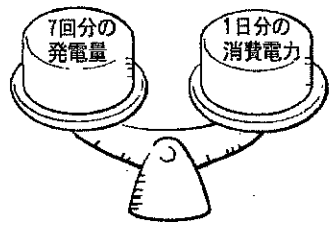


■アクエナジー機能 （アクエナジー式の場合）

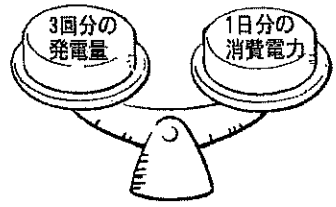
本品は洗浄水を利用した発電機を内蔵しており、発電されたエネルギーは電源回路に蓄えられます。その発電量は次のとおりです。



スーパーAIモード節水の場合
※ 流量12L/分で、1回につき
1.2Lの洗浄をした場合です。



AI節水モードの場合
※ 流量12L/分で、1回につき
2.4Lの洗浄をした場合です。



固定モードの場合
※ 流量12L/分で、1回につき
4Lの洗浄をした場合です。

長時間使用しなかったり、流量、水量が少ない場合には、電源回路の電圧が低下し、充電不足の状態になります。
この場合、自動的に感知の早さがゆっくりになります。また、設備保護洗浄の時間間隔や洗浄水量も自動的に切り替わり、充電量を確保して作動を続けます。流量を適正範囲（12～16 L／分）に調節すれば、下表の内容となります。

本洗浄の設定	項目	充電十分	充電不足
スーパーAI節水モード	1日の使用回数	10回以上	9回未満
	本洗浄の水量	1～2 L	6 L
	設備保護洗浄の間隔、水量	2時間毎に2 L	2時間毎に6 L
AI節水モード	1日の使用回数	7回以上	6回未満
	本洗浄の水量	2～4 L	6 L
	設備保護洗浄の間隔、水量	8時間毎に4 L	2時間毎に6 L
固定モード	1日の使用回数	3回以上	2回未満
	本洗浄の水量	4 L	6 L
	設備保護洗浄の間隔、水量	8時間毎に4 L	2時間毎に6 L
感知の早さ		はやい	ゆっくり
専用リチウム電池の交換の目安		4年（※）	

※流量が適正範囲で使用回数が充電十分であれば、消費電力は自己発電で補充されるため、専用リチウム電池はほとんど消耗しません。ただし、専用リチウム電池の使用推奨期限は4年ですので、この期間内で交換してください。

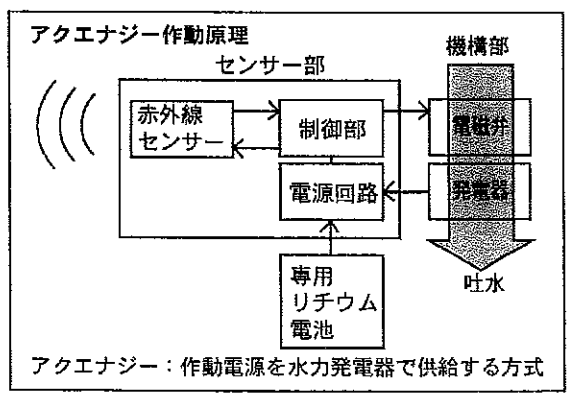
「専用リチウム電池（品番A-4025）の交換（アクエナジー式の場合）」（P. 19）を参照してください。

流量が適正範囲（12～16 L／分）を下回ると発電できませんので、専用リチウム電池を消耗し作動を継続します。この場合、専用リチウム電池の交換の目安は、1日100回の使用条件で約1年です。

流量を適正範囲内に維持するよう、管理が必要です。

・流量の調節　→　「流量の調節」（P. 21）

・ストレーナーの点検、清掃　→　「ストレーナーの点検、清掃」（P. 15）を参照ください。



アクエナジー：作動電源を水力発電器で供給する方式

点検と保守

点検や調節は、(100 V式の場合は電源を切り)、甲板を外してから行ってください。

■甲板の取り外し、取り付け

甲板は、面ファスナーとフックを併用して固定されています。(図 1)取り外し、取り付け方法を誤ると、甲板を破損する恐れがありますので、必ず下記の手順で行ってください。

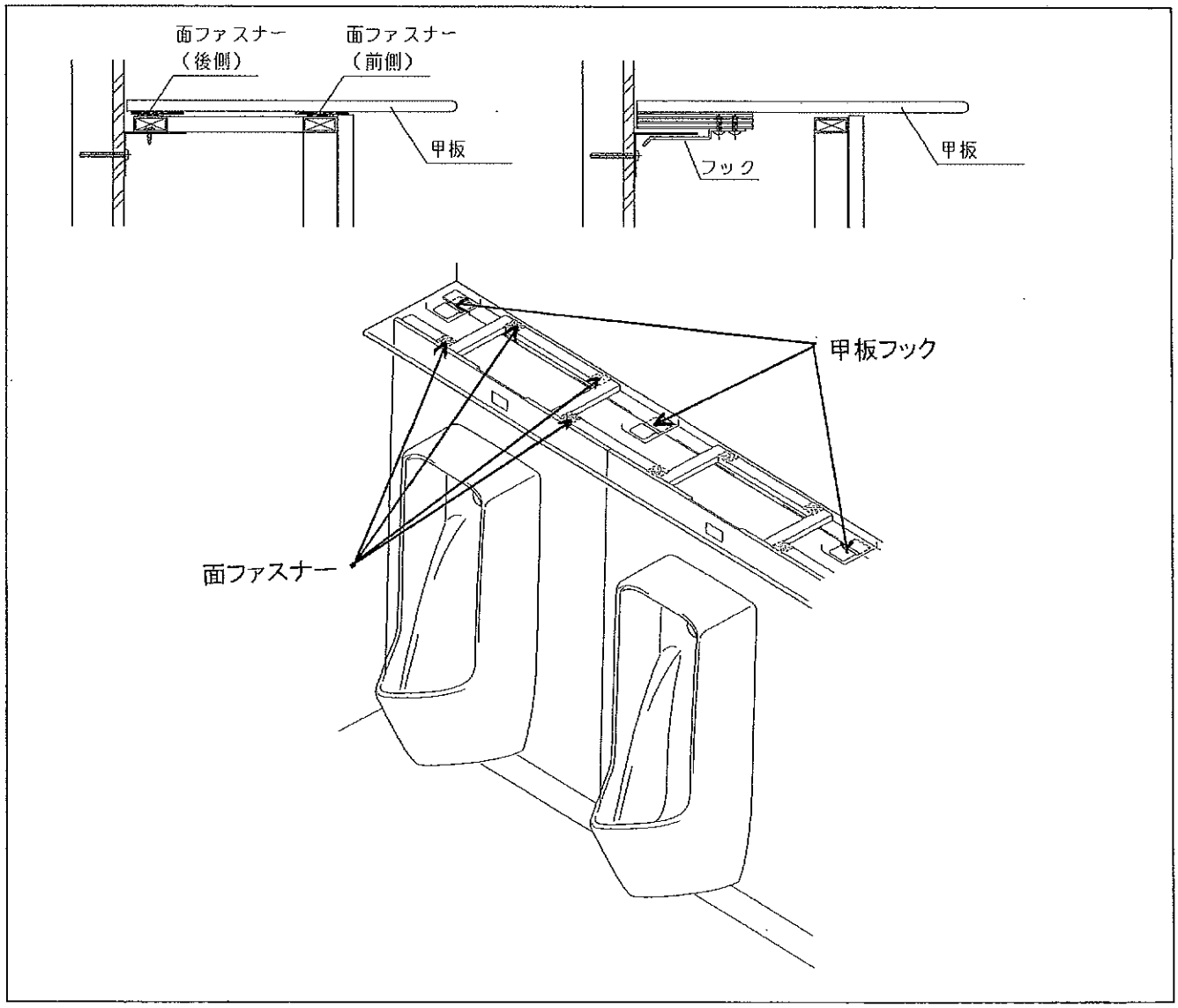
※甲板の後ろ側はフックで引っ掛かっていますので、取り外すときには最初に勢いよく持ち上げないでください。

※甲板の取り付け、取り外しは、周囲の壁を傷つけないよう注意して行ってください。

取り外し方法

甲板をゆっくり両手で2 cmほど持ち上げ、前側の面ファスナーの嵌合が完全に外れた状態にしたら(図 2)、いったん甲板を下ろします。次に甲板を上下に少しずつ動かし、後ろ側の面ファスナーの嵌合を外しながら、甲板を手前に引き、フックのひっかかりを外します。(図 3)フックが完全に抜けたことを確認し、甲板を取り外します。(図 4)

図 1 取付け状態 面ファスナーとフックの併用で取り付いています。



取り外し方法

図 2　甲板前側を少し(2 cmほど)持ち上げ、前側の面ファスナーの嵌合を外します。外したらいったん甲板を下ろします。
※最初に勢いよく持ち上げないでください。甲板、フックが破損する恐れがあります。

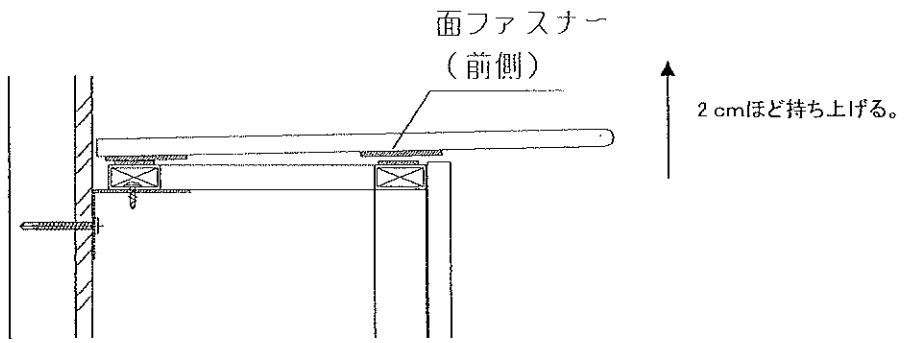


図 3　後ろ側面ファスナーの嵌合を外しながら、甲板を手前に引き出し、フックの引っ掛かりを外します。

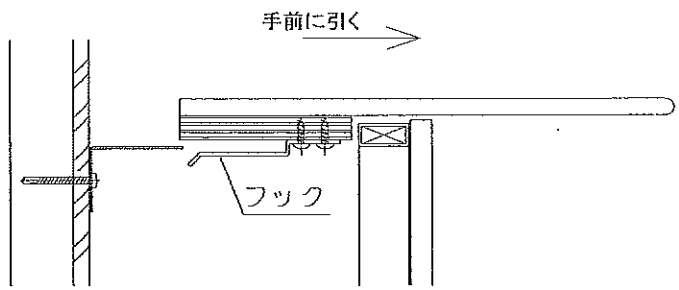
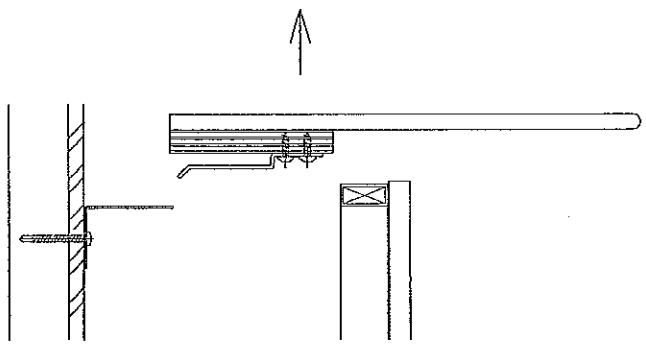


図 4　甲板を取り外します。



取り付け方法

甲板を所定の位置から 6 cmほど手前の位置でフレーム上に水平に置きます。(図 5)

フックが引っ掛かることを確認しながら徐々に後方にずらしていき、(図 6)所定の位置に押し込みます。

甲板裏に面ファスナーが取り付けてある部分の上面を手で叩きこみ、しっかりと嵌合させます。(図 7)

※　フックがすべて引っ掛かることを確認してから、甲板を所定の位置に押し込んでください。

※　取付け後、面ファスナーが確実に嵌合されていることを確認してください。

図 5　6 センチほど手前の位置で甲板を水平に置きます。

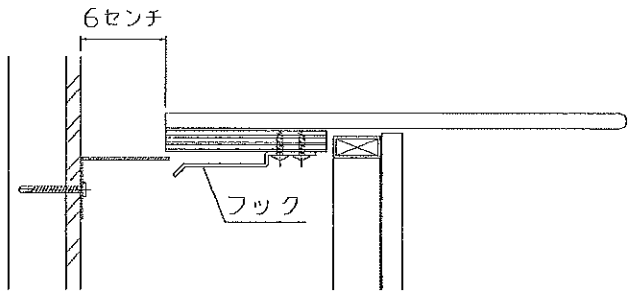


図 6　甲板を徐々に後方にずらしていき、フックを引っ掛け、所定の位置まで押し込みます。

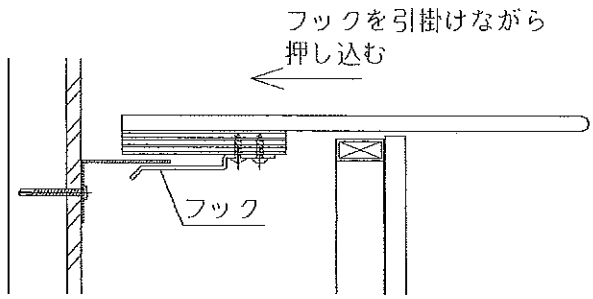
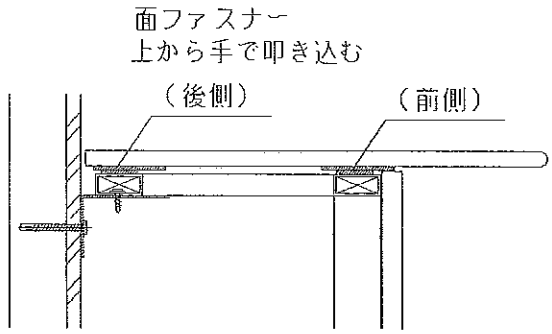
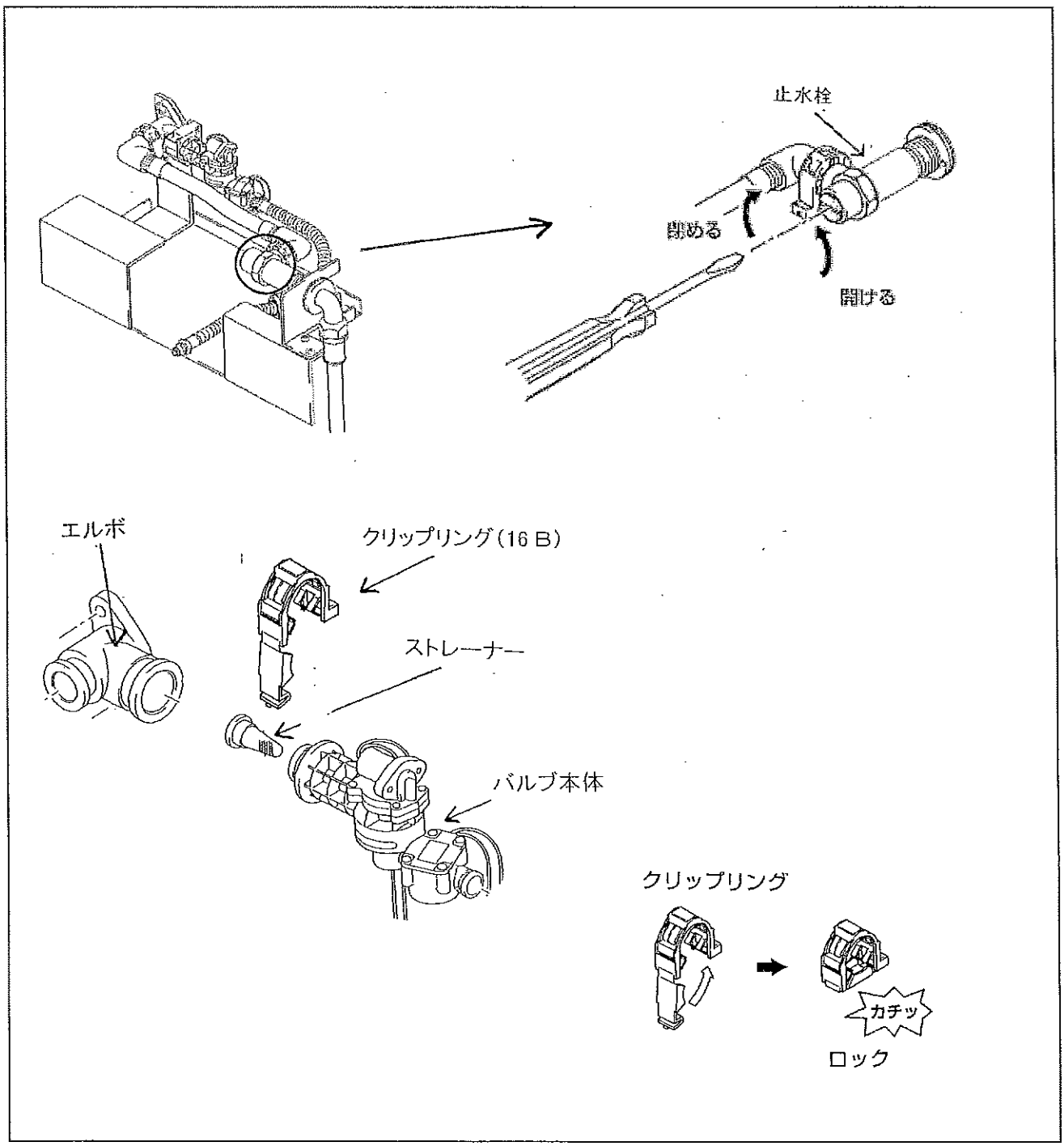


図 7　面ファスナーの部分を手で叩き込みます。



■ ストレーナーの点検、清掃

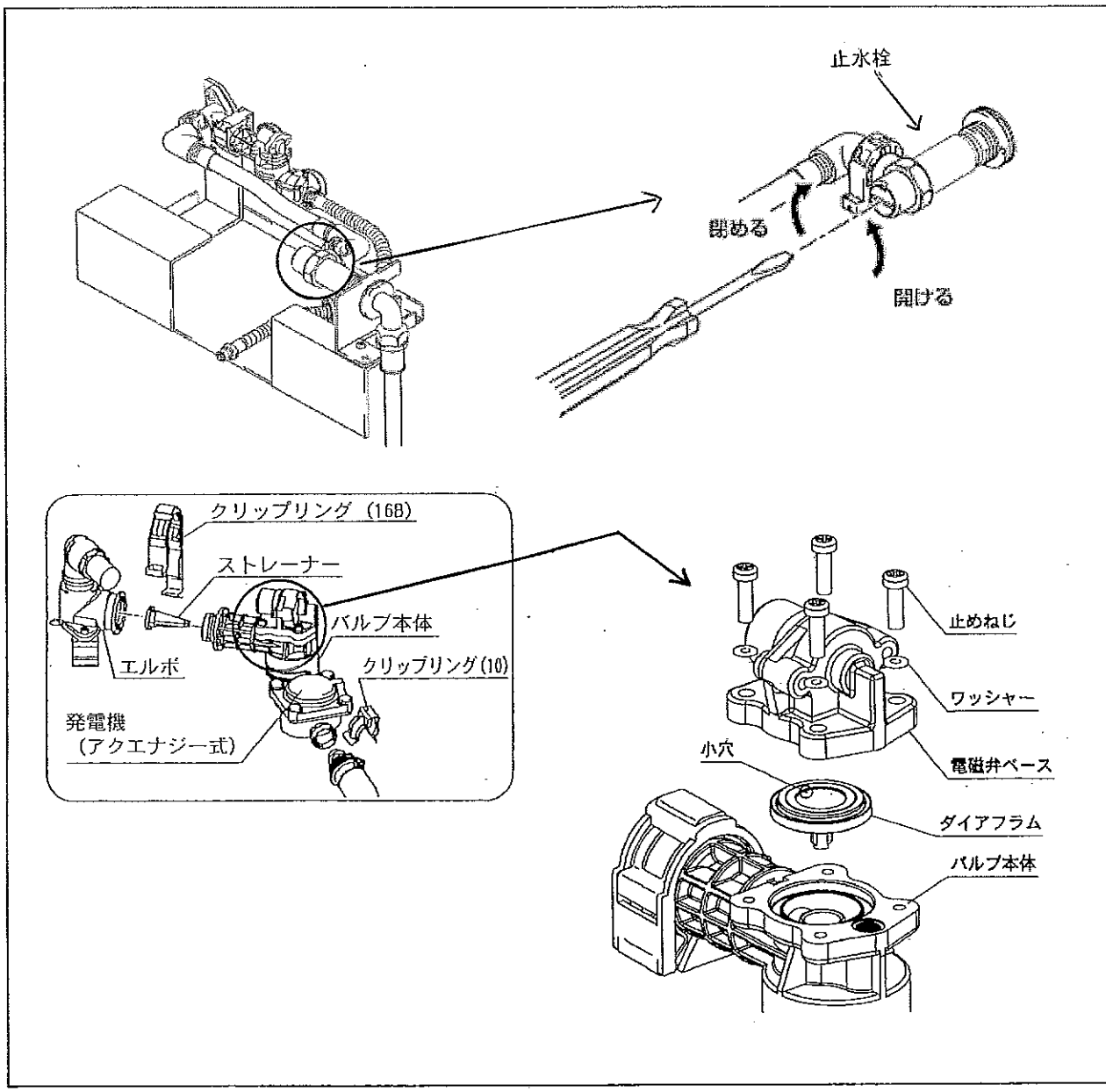
1. 止水栓を右に回して閉めます。
2. 一度感知させて止水していることを確認してください。
3. クリップリング(16 B)を外し、エルボからバルブ本体を外します。
4. バルブ本体に付いているストレーナーのゴミ等を水洗いして取り除きます。
5. 逆の手順でバルブ本体を取り付けます。
   ※クリップリング(16 B)を取り付けた後、ロックし 1 回転させて確実に接続されたことを確認してください。
6. 止水栓を左に回して開け、通水します。
   ※このとき、適正な流量になるよう、流量を調節してください。詳細は「流量の調節」(P. 21)を参照してください。



■ 電磁弁、ダイアフラムの点検、交換

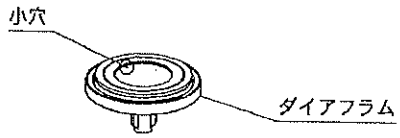
取り外し方法

1.(100 V式の場合)
　元電源を切ります。
(アクエナジー式の場合)
　専用リチウム電池を外します。
2.止水栓を右に回して閉めます。
3.一度感知させて止水していることを確認してください。
4.クリップリング(16 B)を外し、エルボからバルブ本体を外します。
5.クリップリング(10)を外し、バルブ本体から給水ホースを外します。
6.電磁弁コネクターを外します。
7.電磁弁の止めねじを 4 本外して、電磁弁とダイアフラムを取り外します。



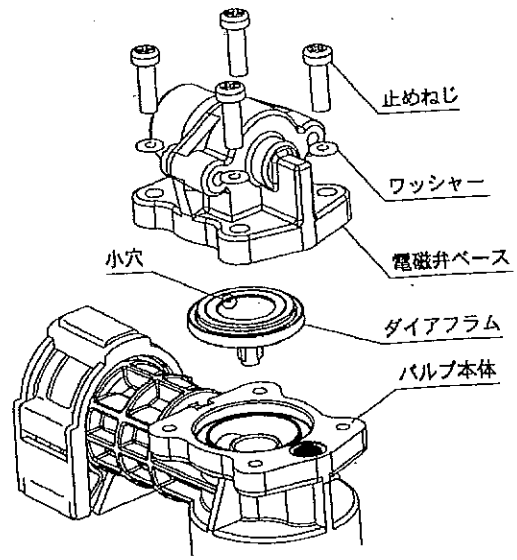
点検、交換

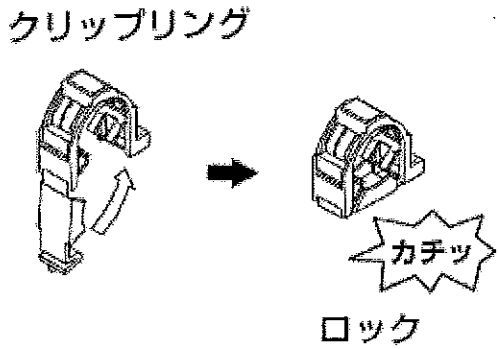
1. ダイアフラムの小穴にゴミ等が詰まっていると電磁弁が正常に動作しないことがあります。その場合は息を吹きかけるなどしてゴミを取り除いてください。
2. それでも動作が正常に戻らない場合は、ダイアフラム、または電磁弁を交換してください。
   ※ダイアフラムの小穴の位置は機能に関係ありません。



取り付け

1. 取り外しと逆の手順で取付けます。
   ※止めねじを締める際は、均等に締まるよう、締めた所から遠い順番に締めます。
   ※クリップリング(16 B)を取り付けた後、ロックし、1 回転させて確実に接続されたことを確認してください。
2. 止水栓を左に回して開け、通水します。
   ※このとき、適正な流量になるよう、流量を調節してください。詳細は「流量の調節」(P. 21)を参照してください



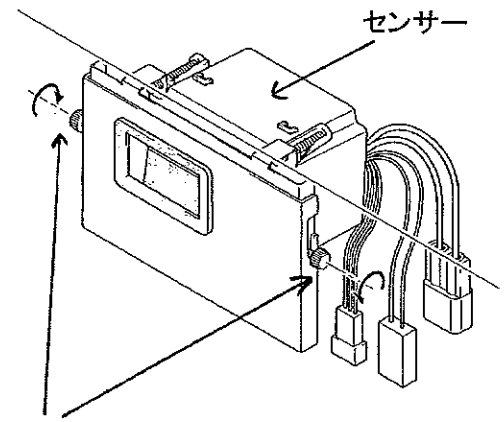


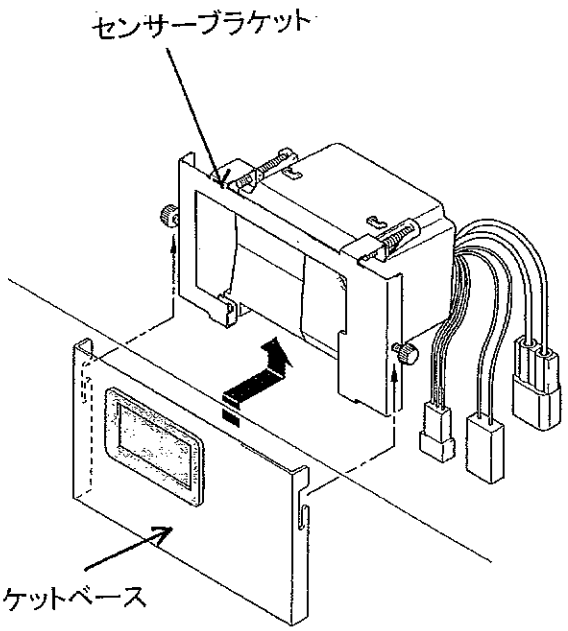
■ センサーの交換

センサーは前板裏面のセンサーブラケット、およびブラケットベースに取り付けられています。

取り外し方法

1. センサーブラケット両横にある手締めねじを少し緩めます。
   ※手締めねじはブラケットが取り出せる程度に少し緩めるだけとし、完全にねじを抜かないでください。
   手締めねじを紛失すると再取り付けができなくなります。
2. ブラケットを持ち上げて、ブラケットベースからブラケットごとセンサーを取り外します。
3. 各コネクターを外します。
4. (アクエナジー式の場合)
   センサーから専用リチウム電池を取り外します。
   ※「専用リチウム電池(A-4025)の交換(アクエナジー式の場合)」(P.19)を参照ください。





取り付け方法

取り外し方法の逆の手順で取り付けてください。

※センサーには上下があります。上下逆に取り付けないように注意してください。

各コネクター接続の手順

【100 V式】

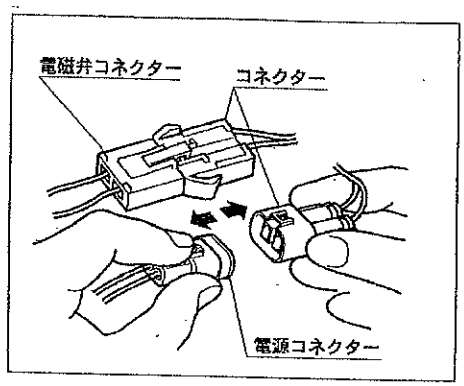
1. センサーからの電磁弁用コネクター(白)と機構部の電磁弁コネクター(白)を接続します。
2. センサーからの流量センサー用コネクター(黒)と機構部の流量センサーコネクター(黒)を接続します。
3. センサーからの電源用コネクター(白)とユニット内端子台からの電源コネクター付き電源線を接続します。

※ 電源用コネクターは、必ず最後に接続してください。もし、電源用コネクターを最後に接続しないと、黄色ランプ(故障表示ランプ)が点滅して作動しなくなります。その場合は、電源用コネクターを接続し直してください。

※ コネクターの形状は 3 種類ありますので、形状が合わないときは無理に接続せず、適合するものと接続してください。

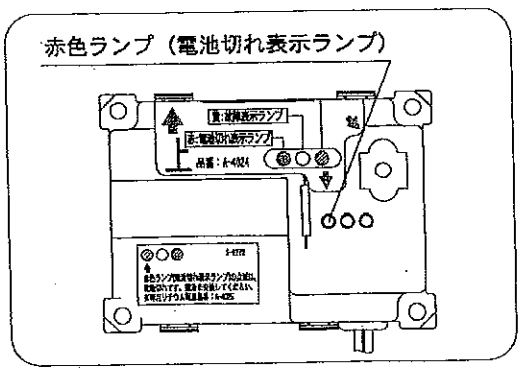
電源コネクター抜き差し(電源リセット)のしかた(100 V式)

右図のように、電磁弁コネクターが接続された状態で、電源用コネクターを電源コネクター付電源線から外し、もう一度接続します。これで電源がリセットされます。
※元電源を入れなおすことでも電源がリセットされます。



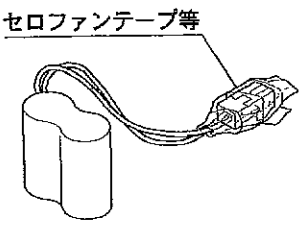
■ 専用リチウム電池(品番:A-4025)の交換(アクエナジー式)

専用リチウム電池の寿命が切れた場合は、センサーの赤色ランプが 1 秒間隔で点滅します。
(センサーを取り外して確認してください。)
その場合は、専用リチウム電池をセンサー側のコネクターから外して交換してください。
※専用リチウム電池は、電池切れにならなくても、4 年を目安に交換してください。
※専用リチウム電池の保障期間は 2 年です。



⚠警告

専用リチウム電池の廃棄のしかたを誤ると、ショートして発熱・破裂・発火することがあり、ケガや火災の原因となります。以下のことを守り、地域自治体の定めた方法で正しく廃棄してください。
※電線を切らないでください。
※外装のチューブを破らないでください。
※コネクターをセロファンテープ等で絶縁してください。



■ 流量センサー(アクエナジー式の場合は発電機)の交換

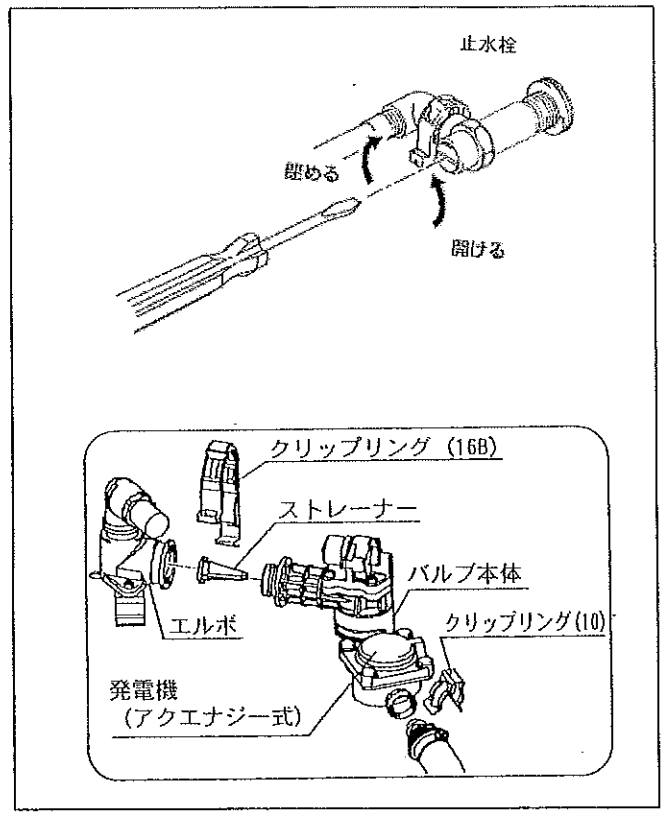
取り外し方法

100 V式の場合

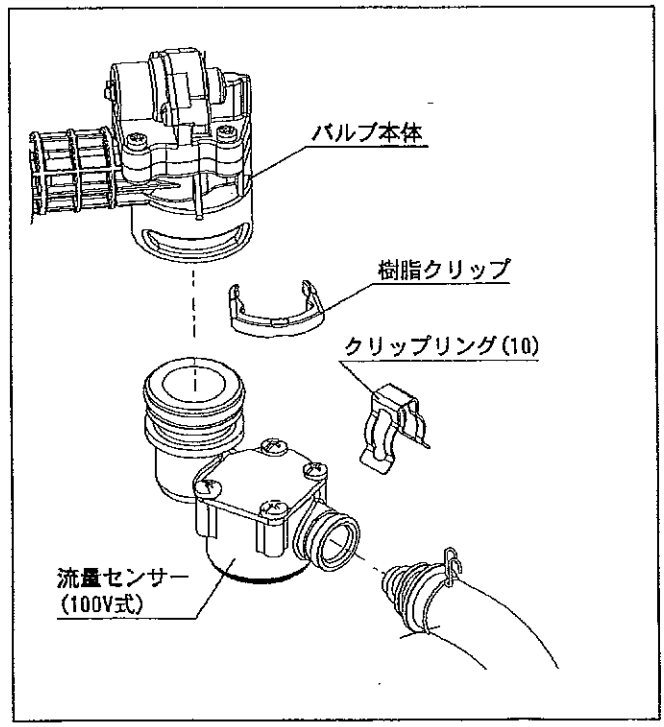
1. 元電源を切ります。

アクエナジー式の場合

1. 専用リチウム電池を外します。
2. 止水栓を右に回して締め、水を止めます。
3. クリップリング(16 B)を外して、エルボから バルブ本体を取り外します。
4. クリップリング(10)をバルブ本体から給水 ホースを外します。



5. 樹脂クリップをマイナスドライバーなどで外し バルブ本体から流量センサー (アクエナジー式の場合は発電機)を外します。



取り付け方法

取り外し方法の逆の手順で行います。

■ 流量の調節

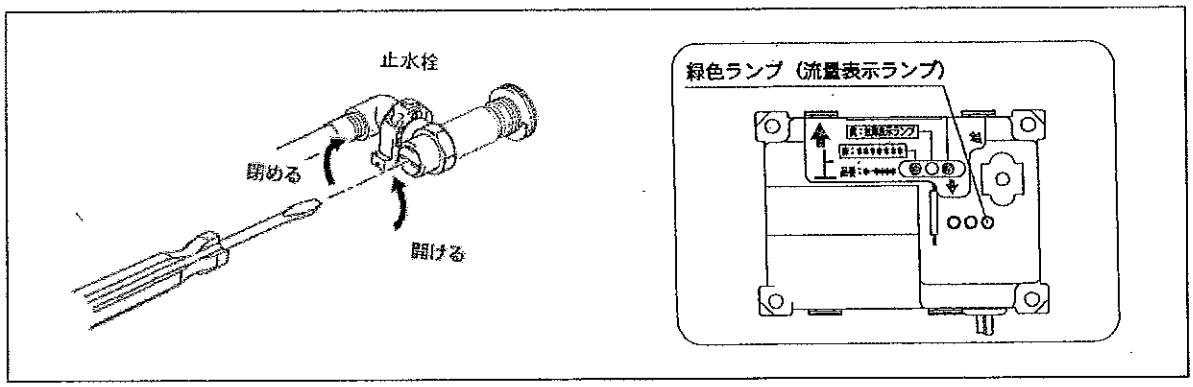
※センサーを取り外し、センサー前面の緑色ランプ(流量表示ランプ)を見ながら流量調節を行ってください。
※センサーの取り外し方法は、「センサーの交換」(P.18)を参照してください。

赤外線センサーに手をかざして本洗浄させ、洗浄している間に止水栓を開いて適正流量になるよう流量を調節します。
適正流量の目安は、センサーの緑色ランプ(流量表示ランプ)が点灯する流量です。
※実際の小便器への水の流れ具合を見ながら、鉢全面に水が行き渡るように調整してください。

緑色ランプ(流量表示ランプ)の点灯状態

点灯状態	流量
遅い点滅	少なすぎる
点灯	適正
早い点滅	多すぎる

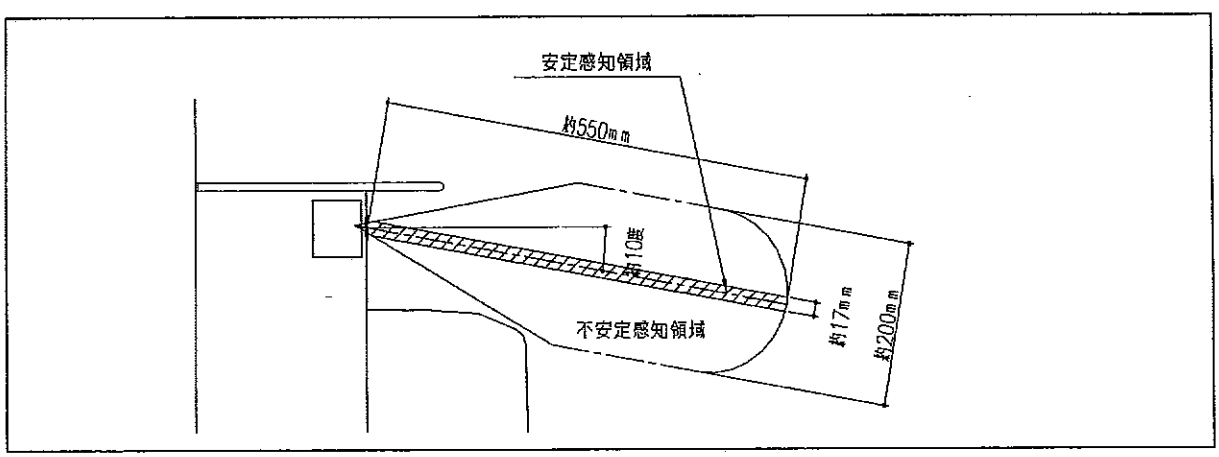
※洗浄直後、および止水する寸前は流量が下がるため、流量表示ランプが点滅する場合がありますが異常ではありません。



■ センサー感知について

本品は感知距離を調節することはできません。人が来たときのみ洗浄することを確認してください。
洗浄されない場合は、正面の壁、アクセサリー類を感知しているなどが考えられるため、感知物を取り除く必要があります。

※100 V式のみ、感知表示ランプ(赤色ランプ)で感知の有無を確認することができます。
(前板のセンサー窓から内部を覗き、赤色ランプが点灯しているときは感知状態です。)



■ センサー故障表示について

本品では異常時にセンサーが自己判断で故障表示をします。水が流れない、または流れっぱなしになるなどの異常時は、センサーを外し、センサー前面の黄色ランプ(故障表示ランプ)を確認してください。

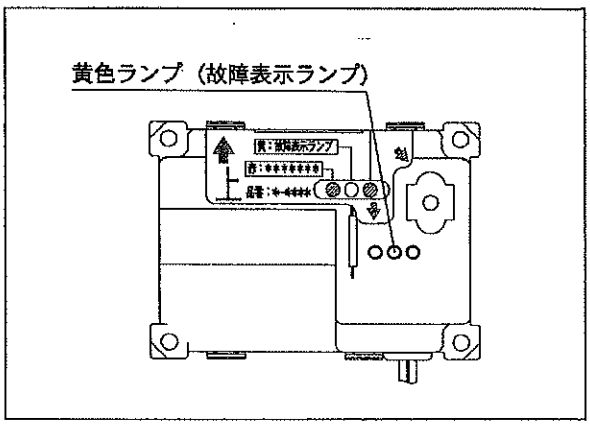
【アクエナジー式】

センサー正面の黄色ランプ(故障表示ランプ)が点滅している場合、以下のことを確認してください。

【100 V式】

センサー正面の黄色ランプ(故障表示ランプ)が点滅している場合、電源コネクターを差し直してください。
(または電源を入れ直してください。)それでも黄色ランプが点滅している場合は、以下のことを確認してください。

- センサーの故障
- 電磁弁コネクターの外れ、電磁弁の故障、
  電磁弁信号線の断線。(電磁弁側、センサー側)
- 流量センサーの故障(100 V式)
- 流量センサーコネクターの外れ、
  流量センサー信号線の断線。(流量センサー側、センサー側)
- 発電機コネクターの外れ、発電機コネクター信号線の
  断線。(発電機側、センサー側)



■ 洗浄モードの設定

洗浄モードは、お引渡し時には次のように設定されています。

予備洗浄	する
本洗浄	スーパーAI節水モード(1～2 L)
設備保護洗浄	各節水モード対応(スーパーAI節水:2 L／2 時間、AI節水:4 L／8 時間)
凍結防止	しない

洗浄モードは必要に応じて変更することができます。各設定の選択可能な内容は以下に示すとおりです。

●予備洗浄の設定

「予備洗浄する」、「予備洗浄しない」のいずれかに設定できます。

●本洗浄の設定

1～2 Lの水量を流す「スーパーAI節水モード」、2～4 Lの水量を流す「AI節水モード」、常に 4 Lの水量を流す「固定モード」のいずれかに設定できます。

●設備保護洗浄の設定

「各節水モード対応」、「24 時間毎 4 L」、「2 時間毎 4 L」、「しない」のいずれかに設定できます。

「各節水モード対応」のときの洗浄仕様は以下のとおりです。

- スーパーAI節水モード ： 2 時間連続して使用者がいない場合、自動的に 2 L洗浄
- AI節水モード ： 8 時間連続して使用者がいない場合、自動的に 4 L洗浄

※「24 時間毎 4 L」、「しない」に設定した場合、排水管に尿石が溜まり、詰まりやすくなります。また、尿臭を感じる場合があります。
よって、「各節水モード対応」でのご使用をおすすめします。

●凍結防止機能の設定

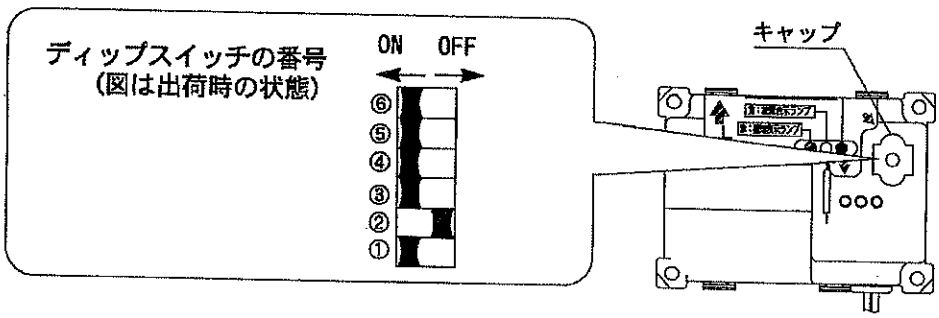
「凍結防止しない」、「凍結防止する」のいずれかに設定できます。「凍結防止する」に設定した場合、冬季一般地での冷え込みによる、製品の凍結破損を防止するため、外気温を検出し一定時間間隔で自己吐水し、凍結しにくくします。

※寒冷地には対応しておりません。寒冷地で使用された場合、凍結により破損する恐れがあります。

●設定変更の方法

1.前板裏に取り付けてあるセンサーを、センサーブラケットごと取り外します。
取り外し方は、「センサーの交換」(P. 18)を参照してください。

2.センサーの表側にあるキャップを外し、小型のマイナスドライバー等でディップスイッチを左右にON／OFFさせて設定を変更します。各機能とそれに対応するスイッチの位置は下表に示すとおりです。



	機　能	動　作	
スイッチ①	予備洗浄の設定		ON：予備洗浄する
			OFF：予備洗浄しない
スイッチ②③	本洗浄の設定	③② ■□	AI節水モード
		③② □■	スーパーAI節水モード
		③② ■■	機能なし（設定しないでください）
		③② □□	固定モード
スイッチ④⑤	設備保護洗浄の設定	⑤④ ■□	各節水モード対応
		⑤④ □■	設備保護洗浄しない
		⑤④ ■■	24時間毎4L
		⑤④ □□	2時間毎4L
スイッチ⑥	凍結防止の設定		ON：凍結防止しない
			OFF：凍結防止する

3.設定が終わったら、外したキャップをつけた後、センサーを元の位置に戻します。
※センサーには上下があります。上下逆に取り付けないよう注意してください。

■センサー感知部、センサー窓（裏面）の清掃

センサー感知部、センサー窓の裏面に埃、汚れが付着するとセンサーが正常作動しない原因になります。
センサー窓表面の清掃（P．25）を行なってもセンサーが正常作動しない場合は、下記手順にしたがってセンサー感知部、およびセンサー窓（裏面）の清掃を行なってください。

①甲板を取り外します。（P．12 「甲板の取り外し、取り付け」参照）
②センサーを取り外します。（P．18 「センサーの交換　取り外し方法」参照）
③センサー感知部、センサー窓の裏面の埃、汚れを除去します。
乾いた布で付着した埃、汚れを拭き取ってください。それでも落ちないときは湿らせた布か、柔らかい布に中性洗剤を少し付けて拭き、後は乾拭きしてください。
また、次のものは使用しないでください。表面を傷める恐れがあります。

- クレンザー、磨き粉などの粒子の粗い洗剤。
- 酸性洗剤、塩素系漂白剤
- ナイロンタワシ、ブラシなど
- シンナー、ベンジンなどの溶剤

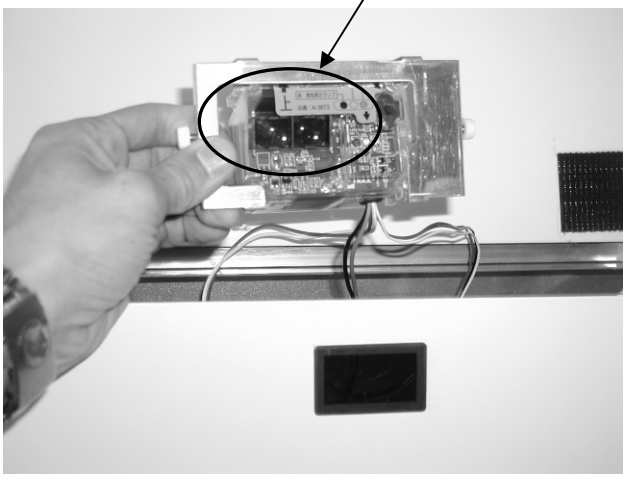
⚠ 警告

センサー、センサー窓に直接水をかけて清掃することはしないでください。
※発火、ショート、感電、破損、故障の原因となります。

⚠ 注意

センサー、センサー窓にはトイレ用洗剤、住宅用洗剤、漂白剤、ベンジン、シンナー、トイレ用ウエットティッシュ
クレンザー、クレゾールを使用しないでください。
※発火、ショート、感電、破損、故障の原因となります。

センサー感知部



センサー窓
裏面も清掃する。

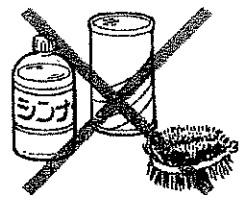
お手入れについて

普段のお手入れは、次のことに注意してください。

■ 前板部、甲板部

汚れは乾いた布で拭き取ってください。それでも落ちないときは湿らせた布か、柔らかい布に中性洗剤を少し付けて拭き、後は乾拭きしてください。
また、次のものは使用しないでください。表面を傷める恐れがあります。

・クレンザー、磨き粉などの粒子の粗い洗剤。
・酸性洗剤、塩素系漂白剤
・ナイロンタワシ、ブラシなど
・シンナー、ベンジンなどの溶剤



警告

前板、甲板部に直接水をかけて清掃することはしないでください。

※発火、ショート、感電、破損、故障の原因となります。

■ 陶器部

樹脂製のブラシやスポンジに中性洗剤を染み込ませ、水またはぬるま湯で洗ってください。
※熱湯は使用しないでください。破損の恐れがあります。
※ガラス質を侵すフッ素化合物入りの洗剤は使用しないでください。表面が侵されます。
※次のものは使用しないでください。表面を傷める恐れがあります。

・金属たわし、硬いブラシ、硬い布
・クレンザー、磨き粉など粒子の粗い洗剤

■ 金属部(スプレッダー)

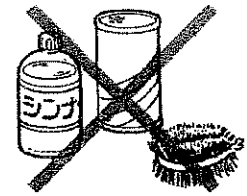
次のものは使用しないでください。金属部が錆びる恐れがあります。

・塩酸、硫酸、過酸化水素、有機酸等による酸性洗剤

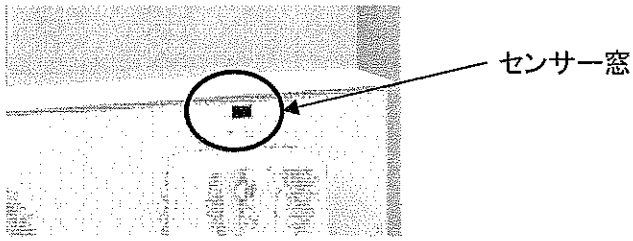
■ センサー窓部

センサー窓表面に埃、汚れが付着した場合は乾いた布で拭き取ってください。それでも落ちないときは湿らせた布か、柔らかい布に中性洗剤を少し付けて拭き、後は乾拭きしてください。
また、次のものは使用しないでください。表面を傷める恐れがあります。

・クレンザー、磨き粉などの粒子の粗い洗剤。
・酸性洗剤、塩素系漂白剤
・ナイロンタワシ、ブラシなど
・シンナー、ベンジンなどの溶剤



※　センサー窓に埃や汚れが付着すると、センサーが正常に作動しないおそれがあります。



⚠ 警告
センサー窓に直接水をかけて清掃することはしないでください。 ※発火、ショート、感電、破損、故障の原因となります。

⚠ 注意
センサー窓には、トイレ用洗剤、住宅用洗剤、漂白剤、ベンジン、シンナー、トイレ用ウエットティッシュ、クレンザー、クレゾールを使用しないでください。 ※破損、故障、発火、ショート、感電の原因となります。

修理を依頼される前に

故障かなと思ったら修理を依頼される前に、次の内容を点検し、調節してください。

それでも故障が直らない場合は、元電源(100 V式の場合)を切り、止水栓を止めてから当社支社、お客様相談センターへお問合せください。

現象	点検内容	点検結果	処置方法	本書参照箇所	ページ
水が出ない	センサー窓の表面が汚れていませんか？埃が付着していませんか？	汚れている。埃が付着している。	汚れや埃を除去する。	センサー窓の清掃	26
	センサー窓の裏面が汚れていませんか？埃が付着していませんか？	汚れている。埃が付着している。	汚れや埃を除去する。	センサー感知部、センサー窓(裏面)の清掃	24
	センサー感知部が汚れていませんか？埃が付着していませんか？	汚れている。埃が付着している。	汚れや埃を除去する。		
	断水中ではありませんか？	断水している。	回復するまで待つ。		
	止水栓が開いていますか？	閉まっている。	止水栓を開き、流量を調節する。	流量の調節	21
	ストレーナーにゴミ等が付着していませんか？	付着している。	ゴミ等を除去する。	ストレーナーの点検、清掃	15
	センサー前(感知範囲)に障害物はありませんか？	障害物がある。	障害物を取り除く。	センサー感知について	20
	電磁弁コネクターは接続されていますか？	接続されていない。	電磁弁コネクターを接続する。	電磁弁、ダイアフラムの点検、交換	16
	電磁弁コードは断線していませんか？または電磁弁が故障していませんか？(正常部材と交換し確認する。)	断線している。故障している。	電磁弁を交換する。		
	センサー側の電磁弁コードは断線していませんか？(正常部材と交換し確認する。)	断線している。	センサーを交換する。	センサーの交換	18
	黄色ランプ(故障表示ランプ)が 1 秒おきに点滅していませんか？	点滅している。	(100 V式) 電磁弁コネクターが接続された状態で電源コネクターを抜き差しする(電源リセット)。抜き差ししても消えない場合はセンサーを交換する。 (アクエナジー式) センサーを交換する。		
	(100 V式) 電源コネクター付電源線は接続されていますか？	接続されていない。	電源コネクター付電源線を一次側電源と接続する。		
	(100 V式) 元電源から電力供給されていますか？	供給されていない。	元電源をONにする。		
	(100 V式) 停電していませんか？	停電している。	回復するまで待つ。		

	(100 V式) 電源コネクター付電源線は断線していませんか？	断線している。	電源コネクター付電源線を交換する。	センサーの交換	18
水が出ない	(100 V式) センサー側の電源線は断線していませんか？またはセンサーが故障していませんか？	断線している。 故障している。	センサーを交換する。	センサーの交換	18
	(アクエナジー式) センサーに専用リチウム電池は接続されていますか？	接続されていない。	専用リチウム電池を接続する。		
	(アクエナジー式) 専用リチウム電池の電源線は断線していませんか？(正常部材と交換し確認する。)	断線している。	専用リチウム電池を交換する。	専用リチウム電池 (A-4025)の交換 (アクエナジー式の場合)	19
	(アクエナジー式) センサーの赤ランプ(電池切れ表示ランプ)が1秒おきに点滅していませんか。	点滅している。 (電池切れです)			
	(アクエナジー式) センサー側の電源線は断線していませんか？またはセンサーが故障していませんか？(正常部材と交換し確認する)	断線している。 故障している。	センサーを交換する。	センサーの交換。	18
水がとまらない	ダイアフラムにゴミが噛んでいませんか？	ゴミが噛んでいる。	ダイアフラムのゴミを取り除く。	電磁弁、ダイアフラムの点検、交換	16
	ダイアフラムの小穴にゴミが詰まっていませんか？	ゴミが詰まっている。	ダイアフラムの小穴のゴミを取り除く。		
	ダイアフラムが故障していませんか？ (正常部材と交換し確認する。)	故障している。	ダイアフラムを交換する。		
	電磁弁が故障していませんか？ (正常部材と交換し確認する。)	故障している。	電磁弁を交換する。		
	センサーが故障していませんか？ (正常部材と交換し確認する。)	故障している	センサーを交換する。	センサーの交換。	18
	黄色ランプ(故障表示ランプ)が1秒おきに点滅していませんか？	点滅している。			
	(100 V式) 流量センサーが故障していませんか？	故障している。	流量センサーを交換する。	流量センサー(アクエナジー式の場合は発電機)の交換	20
流量が少ない	止水栓を閉め過ぎていませんか？	閉め過ぎている。	適正な流量まで開く。	流量の調節	21
	ストレーナーにゴミ等が付着していませんか？	付着している。	ゴミ等を取り除く。	ストレーナーの点検、清掃	15
流量が多い	止水栓を開き過ぎていませんか？	開き過ぎている。	適正な流量までしぼる。	流量の調節	21
水が勝手に流れる。	洗浄中に緑色ランプ(流量表示ランプ)が点灯、または点滅していませんか？	点灯または点滅している。	正常です。 追加洗浄、設備保護洗浄、凍結防止洗浄のいずれかの機能が働いています。 これらの機能を解除したい場合は、洗浄機能の設定を変更してください。	各機能の説明 洗浄モードの設定	8～10 22

	黄色ランプ(故障表示ランプ)が1秒おきに点滅していませんか？	点滅している。	センサーを交換する。	センサーの交換	18

仕様

	HUU-406RC,SOKU	HUU-406RC,SAMU	HUU-411RC,SOKU	HUU-411RC,SAMU
小便器	低リップ中型壁掛小便器		大型壁掛小便器	
	U-406RC		U-411RC	
Min ユニット高さ	1140 mm		1250 mm	
電源	AC100V 50/60Hz	自己発電式 ※注)専用リチウム電池付	AC100V 50/60Hz	自己発電式 ※注)専用リチウム電池付
消費電力	常時 4W、バルブ作動時 8W 以下			
感知距離	約 550 mm			
感知巾	約Φ200 mm			
使用周囲温度	0～40℃(寒冷地には対応しておりません。)			
給水圧力	最低必要圧力:0.07MPa(流動時)、最高水圧:0.60Mpa(静水圧)			
予備洗浄	1.あり、2.なしより選択可能(お引渡し時は 1.に設定)			
本洗浄	1:スーパーAI節水モード : 1～2 L (お引渡し時は 1 に設定) 2:AI節水モード : 2～4 L 3:固定モード : 4 L固定			
設備保護洗浄	1:スーパーAI節水モード :2 時間連続して使用者がいない場合、自動的に 2 L洗浄 2:AI節水モード、固定モード :8 時間連続して使用者がいない場合、自動的に 4 L洗浄 お引渡し時は 1 に設定。 ※この他に節水モードに関係なく、「2 時間毎 4 L洗浄」、「24 時間毎 4 L洗浄」、「しない」にも設定できます。ただし、「24 時間毎 4 L洗浄」、「しない」に設定した場合、排水管に尿石が溜まり、詰まりやすくなります。また、尿臭を感じる場合があります。アクエナジー式の場合は発電量が減少してしまうため、専用リチウム電池の消耗が早くなります。			
その他の節水機能	・本洗浄中に使用者を感知すると洗浄を中止。 ・感知後、4 秒以内に非感知となった場合には本洗浄なし。			
掃除機能	掃除用ボードで洗浄を停止させることができます。			

※注:バックアップ用専用リチウム電池(品番:A-4025)の寿命は使用状況により異なります。器具保護のため、最長でも 4 年を目安に交換してください。